

安波地域づくりと東部周遊拠点 相互連携プロジェクト委託業務

報告書【概要版】



平成30年3月

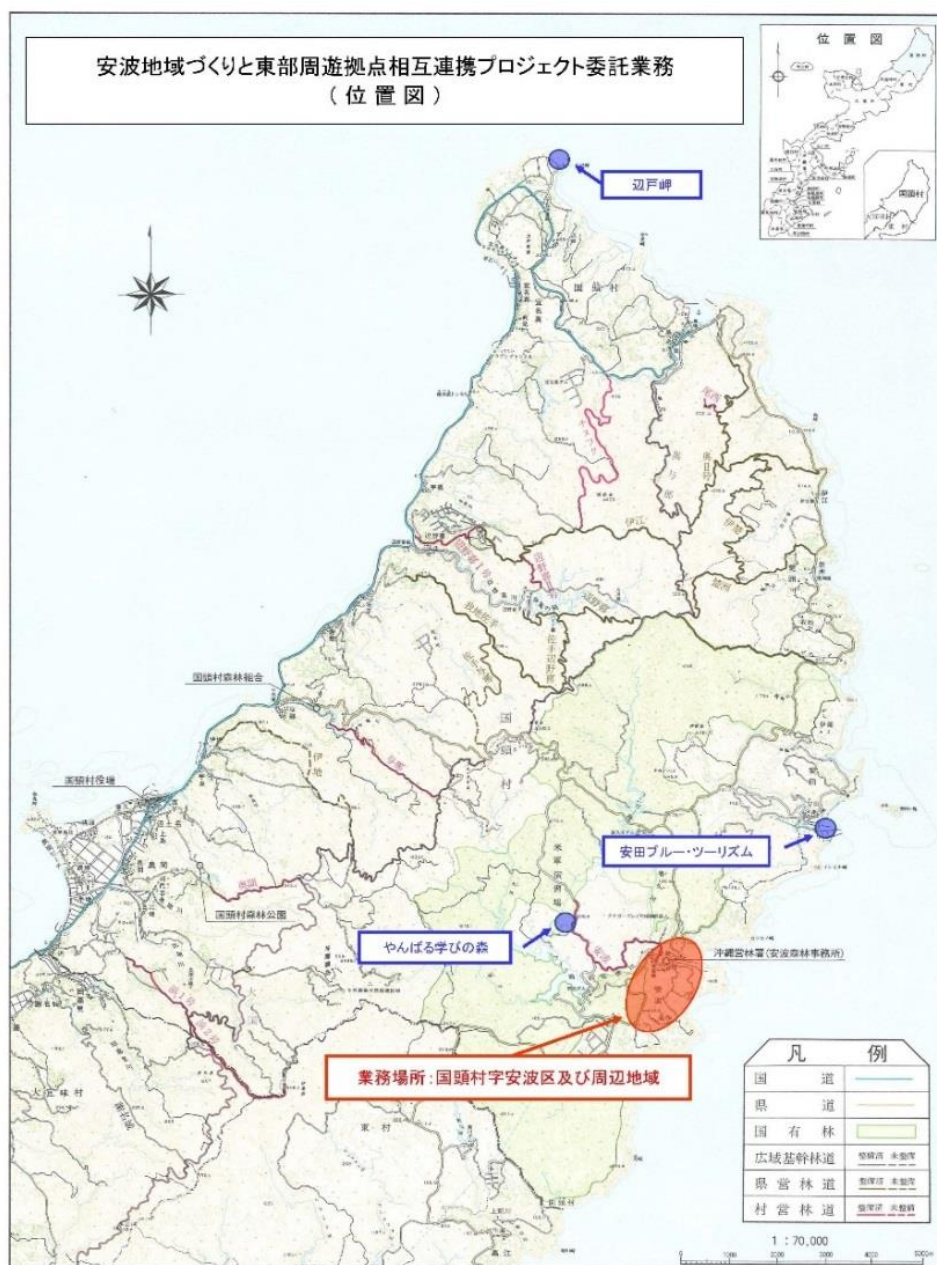
国頭村

1 業務の目的

沖縄本島北部地域の3村（国頭村、大宜味村、東村）に跨る「やんばるの森」が、平成28年9月に国内33番目の国立公園に指定され、さらにその生態系や生物多様性から世界自然遺産登録に向け各種の取り組みを行っているところです。交流人口増大に向けやんばるの観光は大きな転換期を迎えており、これらを契機に国頭村の東部地域においても観光連携体制を構築し、偏在する観光客を誘導する新たな観光ルートを創出するとともに、周遊・滞在・消費型観光の促進に繋げていく必要があります。

本業務は、東部周遊の拠点として地域住民が主体となった安波区の地域づくりを行うとともに、東部周遊拠点施設整備計画（仮称：道の駅 安波）とも相互連携を図り、地域資源を活かした魅力づけについて検討し、道の駅の目的地化も企図した事業展開の検討を行い、効果的な施設の管理運営に結びつけることを目的に実施しました。

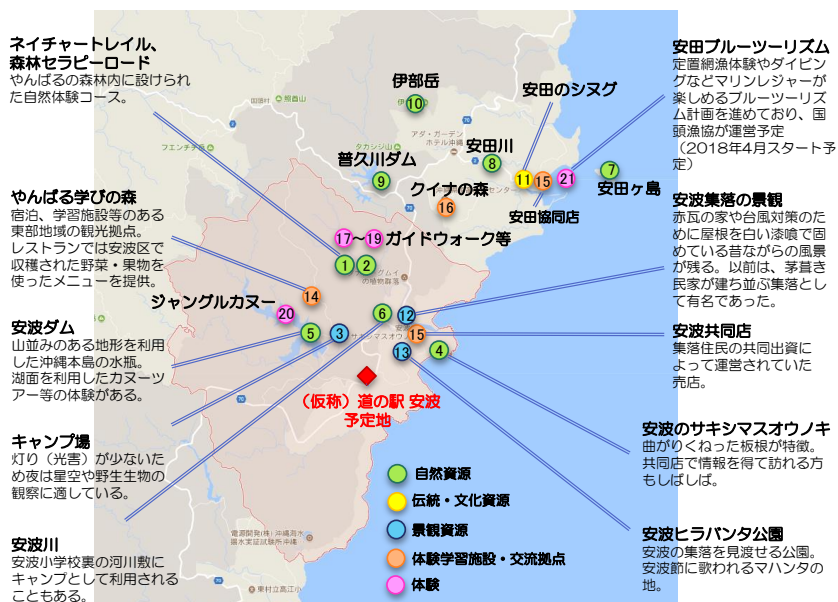
■本業務の位置図



2 安波区周辺の地域資源

本業務の対象地域である安波区周辺には、魅力的な地域資源が点在しています。検討の前提として、安波区の地域づくり及び（仮称）道の駅安波の魅力づけに結びつけるような掘り起こしと整理を行いました。

種別	資源名
自然資源	①ネイチャートレイル、②森林セラピーロード、③キャンプ場、④安波のサキシマスオウノキ、⑤安波ダム、⑥安波川、⑦安田ヶ島、⑧安田川、⑨普久川ダム、⑩伊部岳 等
伝統・文化資源	⑪安田のシヌグ 等
景観資源	⑫安波ヒラバンタ公園、⑬安波集落の景観 等
体験学習施設・交流拠点	⑭やんばる学びの森、⑮共同売店、⑯ヤンバルクイナ生態展示学習施設「クイナの森」 等
体験	⑰ガイドウォーク、⑱バードウォッチング、⑲ナイトハイク、⑳ジャングルカヌー、㉑安田ブルーーツリズム 等
特産品	㉒パインアップル、㉓じゃがいも、㉔安納芋、㉕小菊、その他スイカ、いちごジャム、安田コーヒー 等



安波区周辺の地域資源の状況



森林セラピーロード



安波ヒラバンタ公園



パインアップルなどの特産品



ジャングルカヌー

3 ワークショップ(ゆんたく会)の開催

将来にわたり持続的に暮らせる地域づくりに向け、地域における現状の課題を共有し（気づき）、地域の資源・改善点を再認識するとともに、①地域と道の駅との連携方法、道の駅を拠点とした際の取組方法、②道の駅全体のコンセプト、ビジョン、事業展開、取組体制等について検討するワークショップ（ゆんたく会）を4回開催しました。

■ゆんたく会概要

項目	内容
第1回	日時：平成29年12月26日（火）18:00～19:30 内容：取組趣旨の説明、仮称：道の駅 安波の整備計画について、意見交換、今後のスケジュール等
第2回	日時：平成30年1月25日（木）18:00～21:00 内容：第1回ゆんたく会の振り返り、道の駅（九州）の視察結果報告、地域づくり講演会の開催報告、道の駅のコンセプトと事業展開イメージの提案、試食会/意見交換会、今後のスケジュール等
第3回	日時：平成30年2月22日（木）18:30～21:00 内容：安波地区いわれ食の試食、道の駅の事業の方向性について、意見交換会、今後のスケジュール等
第4回	日時：平成30年3月15日（木）18:00～21:00 内容：第3回ゆんたく会の振り返り、道の駅（関東）の視察結果報告、安波の歴史について、道の駅の事業計画（案）、意見交換会：道の駅安波（仮）の未来年表をつくろう！

※安波区公民館にて開催、参加者は安波区関係者、国頭村役場、事務局

■ゆんたく会の様子



ゆんたく会



試食会



班ごとのワーク



ワークの結果発表

4 先進地視察研修の実施

九州地方、関東地方を対象に、県外の過疎地域における地域づくり及び道の駅の先進地視察調査を行い、本業務の推進に係る参考事例を収集し、（仮称）道の駅 安波の事業展開の検討の参考とするとともに、関係者の意識共有を図りました。

■九州地方における先進地視察研修の概要

項目	内容
実施期間	平成30年1月10日（水）～1月12日（金）
視察先	- 道の駅おおき（福岡県大木町） - 道の駅小国（熊本県小国町） - 道の駅阿蘇（熊本県阿蘇町） - 道の駅酒谷（宮崎県日南市）
参加者	国頭村役場、安波区関係者、受託事業者等計9名



■関東地方における先進地視察研修

項目	内容
実施期間	平成30年2月24日（土）～2月26日（月）
視察先	- 道の駅もてぎ（栃木県茂木町） - 道の駅ましこ（栃木県益子町） - 道の駅うつのみや ろまんちっく村（栃木県宇都宮市） - 道の駅こすげ（山梨県小菅村）
参加者	国頭村役場、安波区関係者、受託事業者等計14名



5 講演会の実施

（仮称）道の駅 安波における取組の参考とするとともに、地域づくりに関する住民の理解向上、意識醸成等を目的に村全域を対象とした、小さな拠点づくりに関する講演会を開催しました。

項目	内容
講演会名	地域づくり講演会 ～みんなで創り、守る地域の暮らし～
開催日時	平成30年1月17日（水） 18:30～20:00
開催場所	国頭村民ふれあいセンター2階ホール
講師	藤山 浩（一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長）
対象者	地域づくりに関心のある国頭村民、 地域づくりに取り組む団体等の関係者 等
参加者	101名
主な内容	（１）開会・挨拶 （２）藤山講師による講演 「地域づくり講演会」～みんなで創り、守る地域の暮らし～ （３）参加者からの質疑・意見交換 （４）閉会

地域づくり講演会

～みんなで創り、守る地域の暮らし～

全国的にも人口減少や高齢化が進む中、国頭村においても少子高齢化が進んでいます。そのような中、村全体としての地域活性化の取り組みや安全・安心な暮らしに加えて、各集落において将来に渡って住民が暮らし続けることができるよう、商業施設のデザインや、生活サービスの維持・確保、地域の収入を確保するための取り組みなどについて住民主体で進めていくことの重要性が高まっています。

本講演会は、道庁地域における持続可能な地域づくりの第一人者である、一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山浩所長をお招きし、地域づくりに関する取り組みの基本的な考え方やポイント、先進事例等についてご講演いただき、今後の国頭村における地域づくりについてご参加の皆様と共に考え、具体的な取り組みに繋げることを目的に開催します。

日時 平成30年1月17日（水） 18:30～20:00

場所 国頭村民ふれあいセンター2階ホール（国頭村辺土名112）

講師 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩

参加費 無料

講師略歴
藤山 浩（ふじやま・こう）
1959 年島根県生まれ。一橋大学経済学部卒業。広島大学大学院社会科学研究科修士課程修了後、国二（マニラ）に渡り、国頭村中山部行政センターに勤務。2017年4月より、一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長、兼任は中山部地域政策、地域開発、地域人口政策、
防災・危機管理、災害復興に関する検討会委員、内閣府 小企業振興・地域産業振興の形成推進に関する有識者部会委員、農林水産省 人口減少社会に対応した農村型持続可能な地域社会 等。

著書「田舎暮らしの物語」（講文社、2015 年）は「読者の声のベスト」で、地域再生の分野の「最優秀賞」の栄冠を戴いている。

対象者：地域づくりに関心のある国頭村民、地域づくりに取り組む団体等の関係者 等

定 員：100 名

事前申込は不要です。
当日出席費までお越しく下さい。

プログラム
18:30 開会・挨拶
18:35 講演
一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩
19:45 参加者からの質疑・意見交換
20:00 閉会

【お問合せ】 国頭村 地域づくり推進委員会（庶務係）
株式会社セブン・エデュケーション
TEL：090-600-8423（受付時間）平日 10:00～17:00
E-mail: chuhin@seven-edu.com

【実施主体】 国頭村役場 企画課 企画課
担当：岡田、木下、伊藤
TEL：0980-41-2101
（受付時間）平日 10:00～17:00



藤山講師による講演



会場の様子

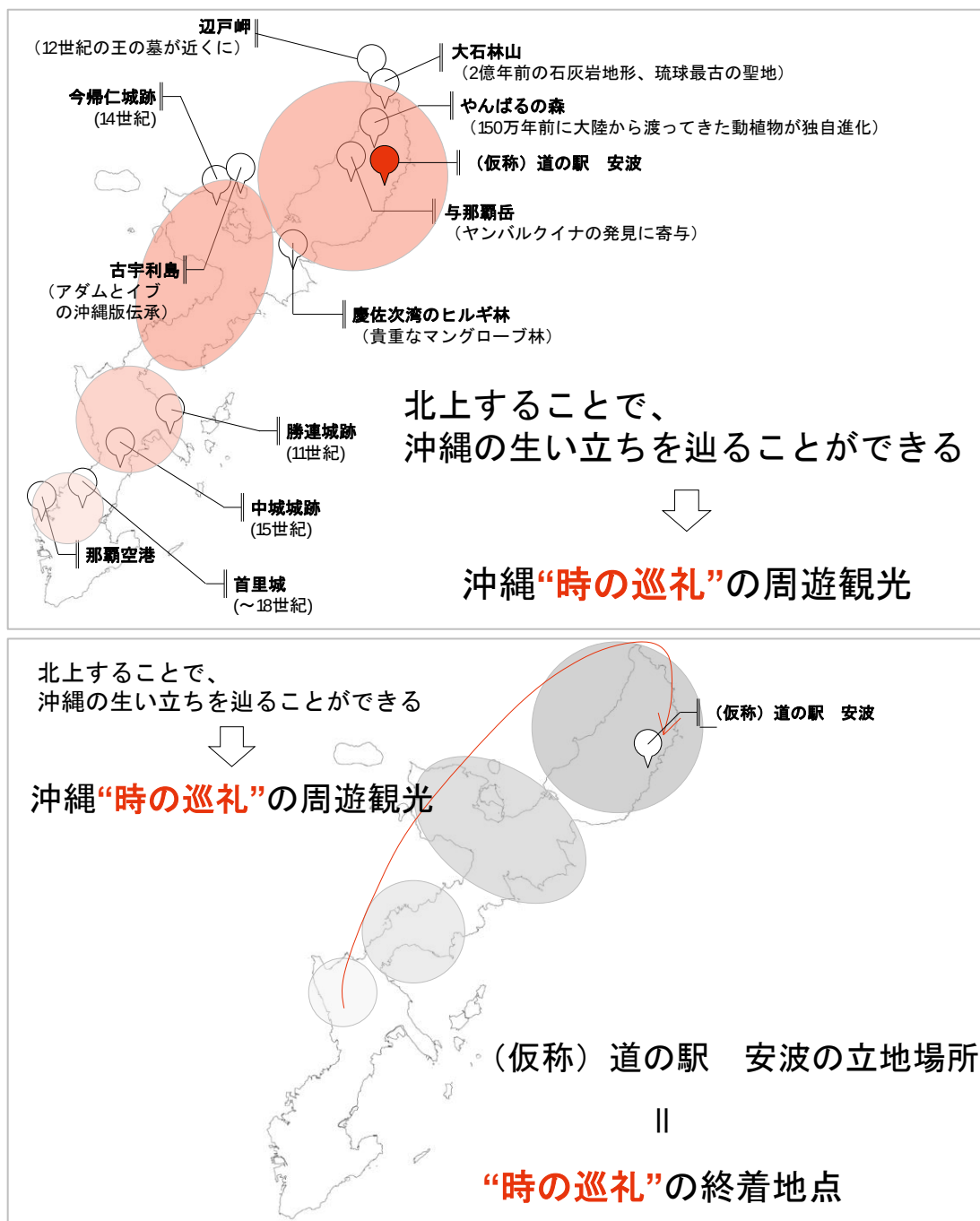
講演会パンフレット

6 地域住民による集落生活圏の将来ビジョン(地域デザイン)の策定 (地域住民による(仮称)道の駅 安波の事業展開の検討)

地域住民による集落生活圏の将来ビジョン(地域デザイン)として、(仮称)道の駅 安波のコンセプト、事業の方向性等の事業展開について、地域住民によるワークショップ(ゆんたく会)を通じて検討し、事業計画案をまとめました。

■(仮称)道の駅 安波のコンセプト

沖縄本島全体の周遊観光プランとして北上することで沖縄の生い立ちを辿ることができる“時の巡礼”を打ち出し、(仮称)道の駅 安波を“時の巡礼”の周遊観光の中に位置付けるとともに、(仮称)道の駅 安波は「沖縄のこれから」と「安波ならではの」を指し示す場であるとししました。



沖縄のこれから

×

安波ならではの

道の駅

施設

= やんばるの森とともに生きる建物

飲食

= 沖縄の伝統を未来につなげるレストラン

物販

= 地域の人たちとともに成長するショップ

体験・展示

= 3つの“時”を体感するプログラム

沖縄のこれから がつまっている場所

▶ 例えば、こんな「これから」

👉 観光のこれから



👉 自然とのこれから



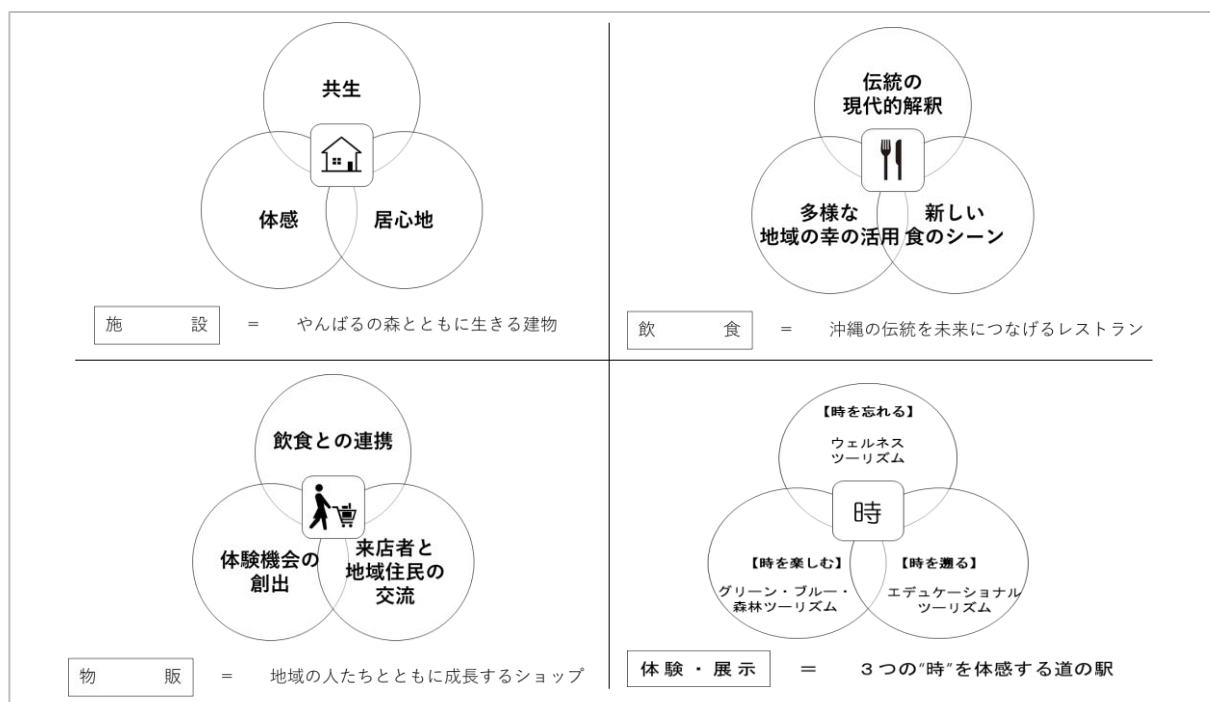
👉 食のこれから



■事業展開・事業計画等の検討

コンセプトをふまえ、(仮称)道の駅 安波の4つの機能ごとにテーマを設定しました。

また、調査や視察等で得られた知見や、地域住民によるワークショップ(ゆんたく会)での意見を踏まえ、45の計画項目を抽出し、「自分たちに」、「未来の世代に」、「応援してくれる方々に」に対する約束という形でまとめました。



45の約束(計画項目)

①全体計画	機能ごとの計画			
	②施設	③飲食	④物販	⑤体験・展示
①-1 立地 ①-2 コンセプトの反映 ①-3 ターゲット ①-4 プロモーション ①-5 運営体制 ①-6 地域との関わり方	②-1 建築デザイン ②-2 建物の大きさ ②-3 建物のかたち ②-4 建物の素材 ②-5 空間デザイン ②-6 空間演出 ②-7 レイアウト ②-8 多様な利用者への配慮 ②-9 誘導サイン ②-10 災害対策 ②-11 駐車場 ②-12 トイレ ②-13 休憩スペース	③-1 料理のジャンル ③-2 提供スタイル ③-3 想定客単価 ③-4 レストランの席数 ③-5 レストランメニュー ③-6 テイクアウトメニュー ③-7 食材の選定 ③-8 食材の調達 ③-9 スタッフの雇用 ③-10 スタッフの育成	④-1 商品開発 ④-2 商品選定 ④-3 加工施設 ④-4 来店者動線 ④-5 店舗デザイン ④-6 販売手法	⑤-1 体験プログラム ⑤-2 飲食との連携 ⑤-3 物販との連携 ⑤-4 ガイド ⑤-5 演出 ⑤-6 料金体系 ⑤-7 展示コンテンツ ⑤-8 展示(時の巡礼)コーナー ⑤-9 展示(世界遺産)コーナー ⑤-10 展示(安波)コーナー

×
自分たちに



×
未来の世代に



×
応援してくれる方々に



■事業計画案の主な取り組みイメージ(1/8)

①全体計画

① - 1 周遊観光のグランドデザインを描き誘客を図る

▶道の駅こすげ

- ・交通の便が悪く通過型の道の駅にはならないため、目的地となる道の駅となるような「わざわざ来なくなる道の駅」の実現を狙った。
- ・「源流イタリアン」をコンセプトにしたレストランは、2017年4月付で、山梨県の道の駅おすすめランキング1位を獲得。



小菅村産の薪で焼いた
ピッツァが目玉商品



小菅村の特産品をふんだんに使った
源流レストランのピッツァ



民間で初めて山女魚の養殖に
成功した地である小菅村の山女魚を
使った「山女魚のアンチョビ」



「山女魚のアンチョビ」の
製造時に得られる山女魚の魚骨を活用した
「こすげドレッシング」



サケ科の川魚である
甲斐サーモンのあらほぐし



ジビエを活用した
ジビエバーガー

① - 6 地域と連携して運営を行う



▶道の駅こすげ

- ・自家消費目的で農産物を作っている人が多い小菅村では、産直では、生産者受益の拡大を目的としているため手数料を低く設定する等、地域と連携して課題解決に取り組んでいる。約130名の生産者が出品。



▶道の駅もてぎ

- ・道の駅主催の花火大会や、小中学生へ定期的にソフトクリームの無料券配布を行うなど、道の駅の利益を地域へ還元し、地域と協同で道の駅を運営していく体制を構築。

②施設

② - 1 景観を壊さないデザインを採用



▶道の駅ましこ

- ・道の駅ましこでは、周辺環境(田園風景)に配慮して、里山の風景を模した連山風の屋根や全面ガラス張りの外観などのデザインを採用。
- ・道の駅として全国で初めて日本建築大賞を受賞。



▶道の駅 千枚田ポケットパーク

- ・隣接する国指定名勝「白米千枚田」に配慮し自生種による緑化、人工物が目立ちにくいレイアウトにより千枚田に溶け込んだデザインを採用。



▶レストラン: Les Cols Restaurant Marquee(スペイン)

- ・その土地固有の環境を強く意識し、周囲のランドスケープと調和したデザインが高く評価され、2017年プリツカー賞を受賞。

■事業計画案の主な取り組みイメージ(2/8)

② - 1 自然との共生を目指した建築デザイン



▶道の駅 平泉

・景観に配慮して、地域の伝手党的な建築デザインを採用しつつ、店舗としての存在感もある建築デザイン。地域の木材を積極的に活用している。

② - 3 地域特性にあった伝統建築を活用



▶道の駅 清嶺(設楽町歴史民俗資料館併設)

屋根は地元の設楽産のヒノキ材を利用し、伝統的な工法を手本としながら新しいスタイルの小屋組みを採用、平成32年OPEN予定。



【道の駅 許田】

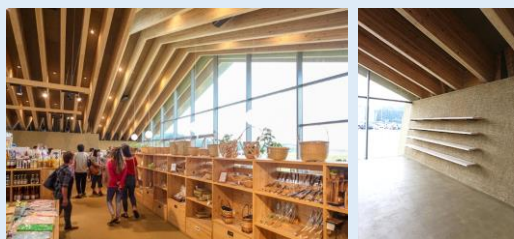


【道の駅 喜名番所】

▶道の駅 喜名番所

沖縄県内の道の駅のほとんどがコンクリートでつくられている。
※道の駅喜名番所のみ琉球王朝の番所をモチーフに沖縄の伝統工法を採用。

② - 4 地域の素材をできるだけ活用



▶道の駅 ましこ

道の駅益子では、地元の八溝杉を使用した屋根や益子焼につかわれる稲わらを混ぜた土壁の内外装を採用。



▶道の駅 平泉

できる限り地域木材を使用して地域の力でつくすることで、地域の活性化につながる「木造」道の駅を提案。

② - 6 音や香りでその地域を感じる演出



▶道の駅 花の駅千曲川

・花の駅というコンセプトからトイレにアロマミストを設置。華やかで清潔感のある空間を演出。売店では、アロマ関連グッズの販売も実施。

■事業計画案の主な取り組みイメージ(3/8)

② - 7 全体コンセプトに基づいたデザイン



▶道の駅 酒谷

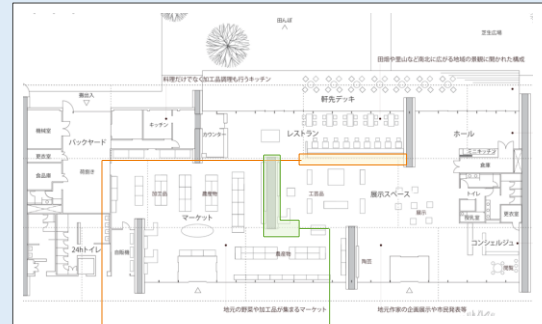
- ・道の駅 酒谷をはじめ、全体のコンセプトに基づいた内装デザインを行い、統一感のある道の駅としてブランディング。



▶道の駅 猪苗代

- ・磐梯山や猪苗代湖など周辺の開放的な田園風景を活かしつつ、「猪苗代らしさ」を楽しむことのできる空間、意匠計画を実施。

② - 7 機能連携を目指し自由に往来ができるレイアウト



▶壁をつくらないエリア区分

- ・レストランと他エリアを欄でエリア区分することで、全体を見ることができるようレイアウトデザインを採用。



▶空間をもたせた壁

- ・壁でエリアを完全に隔てるのではなく上部に空間をもたせたり、回避できる同線を確保することで自由に買い物を楽しむことが可能。

▶道の駅 ましこ

- ・各部門毎に施設をつくるのではなく、1つの施設内に集約し、各部門をエリア毎に配置することで来訪者は自由に回遊ができるため、部門間で連携した販促展開が可能となる。

② - 8 ユニバーサルデザインの採用



- 【車いす利用者に配慮】
- 車いす動線がすれ違える通路幅の確保や、低めの什器やレジ台を採用するなど細部に配慮。



【ユニバーサルデザイン食器採用】

- 滑り止め加工がなされ安心して食事を楽しめるような食器を採用



【赤ちゃんの駅登録】

- 授乳やおむつ替え等で気軽に立ち寄ることができる施設として登録

▶道の駅 常陸大宮〜かわプラザ〜

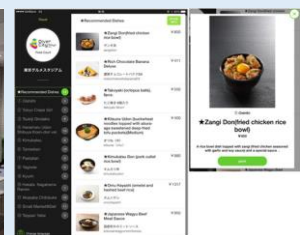
- ・平成28年3月に開業した道の駅常陸大宮は、計画当初からユニバーサルデザインの考えに基づいた設計や福祉関係部局との協議により、平時は勿論、災害時においても体の不自由な方や妊産婦の方などが、安心して利用できるよう様々な配慮がなされている。
- ・平成29年度バリアフリー、ユニバーサルデザイン推進功労者表彰において、内閣府特命担当大臣表彰優良賞受賞。

② - 8 多言語表記による案内



▶道の駅ピア21しほろ

- 多言語上記や展示表記など、多様な利用者を想定したサイン案内を実施。



▶ダイバーシティ東京プラザ

- インバウンド対応としてフードコートに各店のメニューを4か国語(英語、中国語、韓国語、タイ語)し、プリントアウトできるシステムを導入。

■事業計画案の主な取り組みイメージ(4/8)

② - 1 2 「トイレで集客」できるクオリティ

▶道の駅 もてぎ

- ・「トイレで集客」をコンセプトに、室内全体に木目調の色合いを取り入れた安らぎの空間を演出。
- ・多機能ブースを男女とも新設、親子利用だけでなく、車いすやオストメイト利用の方にも配慮。
- ・便器はすべて床から離すことで清掃が行き届いた床を保持している。

トイレ入り口まわり



トイレは道の駅の中心に設置、男女トイレの入り口にはマスコットキャラクターのイラストが描かれ、親しみやすい雰囲気にしている。

多機能トイレ



オストメイト用にも設置した多機能トイレ、ライニングの傷さかぬにすきりしたイラストが描かれ、親しみやすい雰囲気にしている。

男性用トイレ



小便器エリアには壁紙を貼らず、黒からの壁紙をカットし、プライバシーを確保、清潔で使いやすい形状の小便器や洗面台を設置し、清潔性にも配慮している。幼児用小便器や子ども用高さの洗面台センターの他、ベビーキープやベビーストを備えたブースも設置しているので、子ども連れの男性も安心して利用できる。



女性用トイレ



採光を活かした明るいトイレ空間、石けん・手洗い・ジェット乾燥一体の多機能洗面器によりスムーズな手洗いを実現し、床への水たれを軽減、落ち黏りやすい汚れも拭き取りやすい。パウダーコーナーは、鏡の正面に縦に配置した照明の照明効果で明るく照らし、化粧直しに必要な明るさを確保している。

女性用トイレ



幼児用便器・ベビーキープ・ベビーストを備えた親子トイレを設け、多機能トイレの利用者中に配慮。また、男女共用の多機能トイレに抵抗がある方へも配慮し、オストメイト対応の車椅子でも入れる広めブースを一般トイレにも設置している。

改修前



洗面エリア

パウダーコーナー

大衆浴エリア

和風便所

③ 飲食

③ - 5 沖縄の伝統を未来に繋げるデザイン



▶道の駅 こすげ

- ・『源流レストラン』をコンセプトに、小菅村の食材を美味しくアレンジ。薪で小菅村産にこだわって使用。



▶道の駅 保田小学校

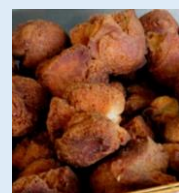
- ・「守る・育てる・伝える里山広場」というコンセプトに基づき、レストランでは、地元素材をふんだんに使った素朴で味わい深い料理が人気。

③ - 6 テイクアウトはバラエティ豊かに



▶道の駅 もてぎ

- ・地元の食材をふんだんに使用したテイクアウトメニューも多数展開。ゆず塩ラーメンは『道 - 1 グランプリ』2 連覇を達成。

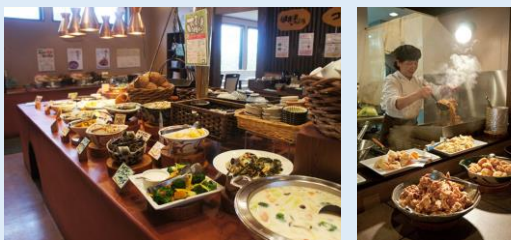


▶道の駅 許田

- ・旅好きが選ぶ日本全国道の駅2014年第1位になった道の駅 許田では、バラエティ豊かなテイクアウトメニューが人気で行列ができる。

■事業計画案の主な取り組みイメージ(5/8)

③ - 7 地元の食材や特産品を活用



▶道の駅 おおき

- ・『地産地消型ビュッフェ』をコンセプトに、高い食材費(4割)や、食材の70%を町内産でまかなっている。女性を中心にリピート客を獲得。



▶道の駅こすげ

- ・商品開発を行ったヤマメのアンチョビを使ったピザをはじめ、小菅村の特産品であるジャガイモやキノコを使ったメニュー等、豊富に展開。

③ - 8 生産者と直接取引し、旬の食材を使用



▶道の駅 ろまんちっく村

- ・ろまんちっく村独自の集荷ルートを整備し、地元農家の朝どれ野菜が集結する直売所や、地元野菜を用いたふんだんに用いたメニューを展開。

④物販

④ - 1 安波ならではの食材を目玉化



▶道の駅 もてぎ

- ・休日は一日1000個以上売り上げることもある大ヒット商品。地元の原材料にこだわり茂木町産コシヒカリ米粉100%使用。



▶道の駅 保田小学校

- ・保田小学校は廃校を最利用した道の駅ということで、ランドセル型の化粧箱など、学校を意識したオリジナル商品が複数展開されている。



▶道の駅 ろまんちっく村

- ・道の駅内にある醸造所で地元産の麦を原料としたクラフトビールを開発。併設レストランでは、醸造設備を眺めながら食事やビールが楽しめる。

■事業計画案の主な取り組みイメージ(6/8)

④ - 1 安波商品を中心としつつ他地域とも連携



▶道の駅もてぎ

- ・農産物や加工品は茂木町産を最優先とした運営を実施。町内のほとんどの農家が生産者登録を行っており、積極的に農産物を販売している。



▶道の駅こすげ

- ・自家消費目的で農産物をつくっている人が大半を占める中で、村内のほぼすべての人が農産物販売者として登録。

④ - 2 レストランと連携した商品開発



▶道の駅こすげ

- ・特産品のヤマメをつかったアンチョビを商品開発し、産直ブースで販売するほか、レストランでもメニューとして採用。



▶道の駅ましこ

- ・レストランで使用されている食材をPOPでアピール。レストランと物販が連携して商品を展開することで相乗効果を期待。

④ - 4 外国人等 多様な利用者への配慮



▶コンビニエンスストア

- オフィスビル内のランチタイム等、爆発的に混雑する際の緩和対策としてレジの誘導ラインを床に敷き、利用客への誘導を実施。

④ - 5 トータルデザインのもと什器を採用



▶道の駅ましこ

- 店内の棚や什器、オリジナルのゴミ箱も地元の工務店や作家が作ったものを利用。



▶道の駅うつのみや ろまんちっく村

- ・下段に野菜ストックカートを設置し、スタッフが補充を行いやすいよう同線にも配慮した什器を採用。

■事業計画案の主な取り組みイメージ(7/8)

④ - 6 出店者と来店者の交流



▶道の駅 ましこ

- ・生産者や加工業者による積極的な試食販売を実施。自由にスペースを無償で提供することで、売上増加の一助を担っている。



▶道の駅 ろまんちっく村

- ・海鮮物の調理販売や、1万人を超えるハンドメイドクラフト市など、様々なイベントを行い交流機会の創出を行っている。

④ - 6 体験型の販売



▶体験型マルシェ（太陽のマルシェ）

- ・生産者と来店者だけの交流ではなく、子どもたちが出店ブースに立ち、販売の手伝いをするキッズマルシェなど、様々な体験交流の場を創出。



▶道の駅 みき

- ・兵庫県三木市は金物の町として有名で、道の駅にも木工道具等が展示されている。また木工道具をと地元の間伐材でつくる木工体験イベントも実施。

⑤体験・展示

⑤ - 1 地域素材をプログラムに積極活用



▶道の駅 ましこ

- ・道の駅に隣接しているイチゴハウスにて、いちご狩り体験を実施。道の駅ましこ内インフォメーションにて受付を実施。



▶道の駅 こすげ

- ・多摩川の源流が流れる小菅村では、源流ならではの自然の中で楽しみながら、川や森への理解を深める体験プログラムを実施。

⑤ - 2 レストランとの連携



▶道の駅 鄙の里

- ・レストランで働く地元の女性たちが講師となって、郷土料理を中心とした料理体験イベントを定期的実施。

■事業計画案の主な取り組みイメージ(8/8)

⑤ - 3 物販との連携



▶Taste of Okinawa

- ・外国人を対象に、市場で買い物をし、買った食材で料理教室を実施。

⑤ - 7 展示×体感で理解を深める



▶道の駅 木古内

- ・展示スペース内に設置してある本棚やキッズスペース、ベンチなど、地元産の道南杉を使用し、地元の素材を体感できる展示を実施。

⑤ - 8 コンセプトにそった展示を行う



▶道の駅 神戸フルーツ・フラワーパーク大沢

- ・「地産地消を遊ぶ」をテーマに地元の農産品や食品の販売を展開、情報発信コーナーでは、神戸市内の観光案内だけでなく、コンセプトに基づいて、食文化を中心とした神戸にまつわる書籍を500冊設置する等、多角的な情報発信を行っている。

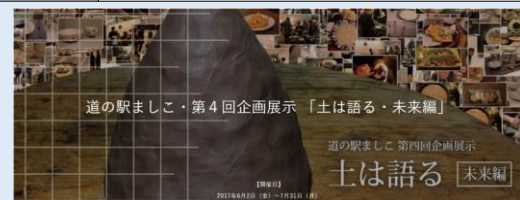
⑤ - 9 体験を通して理解を深める



▶道の駅 たいら 五箇山和紙の里（世界遺産の情報発信）

- ・世界遺産五箇山地域の近隣に設置されている道の駅たいらでは、合掌造りの体験館で、和紙すき体験等を通して地域の文化に触れることが可能。

⑤ - 10 展示を通して地域の魅力をPR



▶道の駅 ましこ（地域の情報発信）

- ・焼き物の産地としての道を歩んできた益子町を、益子焼の「過去」「現在」「未来」の切り口から地域産業の展望を展示発表。

【お問い合わせ】国頭村役場

〒905-1495 沖縄県国頭郡国頭村字辺土名121番地

TEL 0980-41-2101 FAX 0980-41-5910